

【第9章】 天中殺の理論

天中殺の理論は、十干と十二支の組み合わせにおいて陽干は陽支の上に乗る、陰干は陰支の上に乗ります。陽干陽支の組み合わせは、 $(+)$ $\times(+)=(+)$ となります。よって、次の陰干陰支へ気を変転させていくことができます。

もし、 $(+)\times(-)=(-)$ となれば、後退ないしは静止となってしまいます。ですから、六十花甲子は、陽干は陽支の上に、陰干は陰支の上に必ず乗るように組み合わせられています。

陰干陰支の組み合わせは、 $(-)\times(-)=(+)$ となります。すると、次の干支へ変転できるのであります。

$(+)$	$(-)$	$(+)$	$(-)$	$(+)$			
甲	乙	丙	丁	戊	・	・	・
子	丑	寅	卯	辰	・	・	・
$(+)$	$(-)$	$(+)$	$(-)$	$(+)$			

このように干と支は陽どうし陰どうしが組み合わせることによって、次の干支の世界へ変転していくことができます。

十干と十二支が循環しながら変転していくにおいて、不自然に動く気を感じる人達がいる、不自然な時間帯が存在するのではないか、という疑問から発見につながったと思われます。

そこで、天地を分類したところ、天の分類が五とおり、地の分類が六とおりできました。天の分類は地の代表である子が基準で、地の分類は天の代表である甲を基準に分類がなされました。